



# 昭和初期の河川改修工事

大正

昭和

## 途別川の切り替え

古い途別川は網状に蛇行して猿別川に注いでいましたが、増水があるたびに氾濫を繰り返していたため、昭和4年、流路を十勝川に切り替える新水路工事に着手しました。昭和8年までに延長3,430m、掘削土量にして27万6,000m<sup>3</sup>に及ぶ大工事が実施されました。

これにより、新水路を「途別川」、蛇行していた元の川は「旧途別川」と呼ばれるようになり、氾濫は解消。「幕別町発展の礎となつた」と記念碑には記されています。



昭和13年の途別川  
の新水路計画  
(十勝川治水計画平面図より)



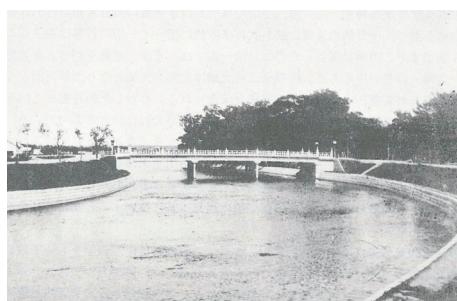
農地が広がる現在の  
途別川と旧途別川の  
周辺



途別川新水路記念碑（幕別町千住）

## 帯広川・売買川改修工事

昭和初期までの帯広川は市街地付近で蛇行し、十勝川からの逆流があるなど、水害が発生しやすい川でした。昭和3年度改修工事に着手し、延長約3kmにわ

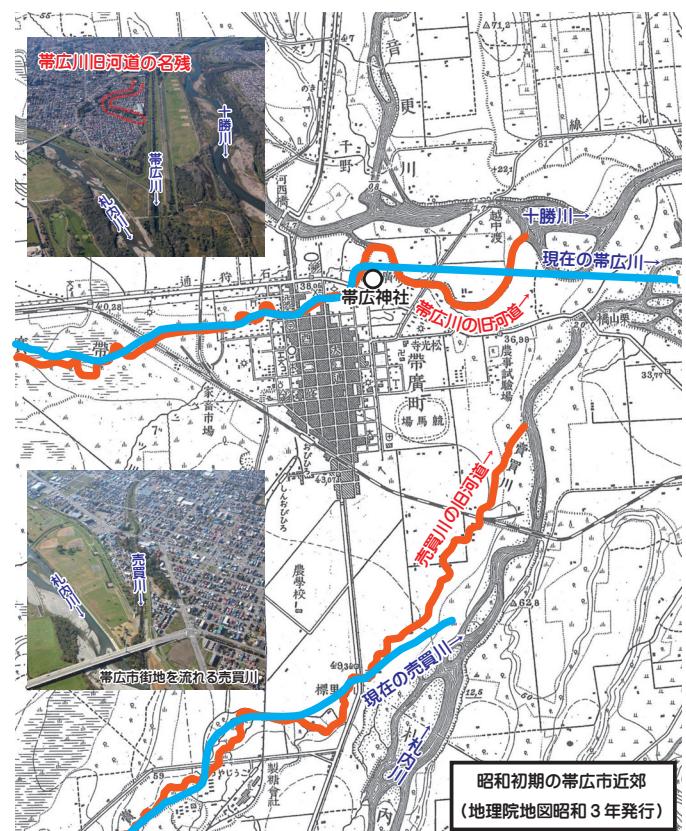


昭和6年の帯広川と鎮橋

たり護岸、橋梁、樋門等を昭和7年までに施工。昭和9年度の帯広治水事務所の工事内容をまとめた事業報文は「本改修の結果は、十勝川右岸伏古、札内堤防線とあいまって、帯広市中の水災を根絶するに至れり」と述べています。

また、昭和4年には売買川改修工事にも着手。札内川の下流（現在の帯広札内川サッカー場付近）に注いでいた流れを上流に新水路を掘削して切り替えました。あわせて護岸、樋門等の工事も実施し昭和6年竣工しました。

帯広川、売買川はその後も改修工事を重ねて現在の姿に至っています。



昭和初期の帯広市市郊  
(地理院地図昭和3年発行)

平成

令和

100年